

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度 昭和46年4月			
総合計画	大項目	基本目標	02 健康でやさしさあふれるまちづくり
	中項目	基本施策	02 健やかで生き生きしたまちづくり
	小項目	施策	06 健康づくり
事務事業名			02 栄養委員会事業
根拠法令・規程等			問 担当課(室) 保健課
問 職・氏名			健康係長・白髭由美子
問 電話			64-1820

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	栄養委員
目的(何のために)	栄養委員会の組織育成とレベルアップを図ることにより栄養改善に努め、市民の健康づくりをすすめる
行政活動(どのような方法で)	栄養委員会及び研修会を実施し、地域で伝達講習等ができるよう支援する。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	委員の栄養や健康への関心及び知識の習得を図り、地域で健康づくりを推進できるボランティアを育成する。

事業の実績					
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績	
栄養委員会及び研修会	回	97	141	144	
栄養委員会及び研修会参加者数	人	1,824	2,043	2,002	
栄養委員数		208	209	208	
事業費	千円	2,236	2,114	1,970	
必要人員	人	1.30人	1.57人	1.36人	
事業費	千円	11,521	13,157	11,423	
国・県・市・道・支	千円	22			
受・益・者・負・担					
総・入・金					
市・債					
そ・他					
一・般・財・源		11,499	13,157	11,423	
受・益・者・負・担・比・率	%				

結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
委員会・研修会回数	回	97	114	144
対前年比	%	102.1%	117.5%	126.3%
活動コスト	円	11,521,000	13,157,000	11,423,000
単位当たりコスト	円	118,773	115,412	79,326
委員会・研修会参加人数	人	1,824	2,043	2,002
対前年比	%	112.0%	112.0%	98.0%
活動コスト	円	11,521,000	13,157,000	11,423,000
単位当たりコスト	円	6,316	6,440	5,706

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
総会(栄養委員研修会)参加率	目標値(A)	80	83	85	85%
	実績値(B)	80	85	84	到達目標年度
	達成率(B/A)	100.0%	102.4%	98.8%	平成20年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
総会(栄養委員研修会)参加人数/栄養委員会委員数(209人)*100					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりのコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input checked="" type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	判定理由・課題認識 備前市条例で目的が定められており妥当である。保健行政の推進と地域住民の健康増進を図るため、栄養委員と協働した事業を推進することは行政として重要な役割である。健康増進、栄養改善を推進する上で適切な情報を提供する必要が有る。
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 説明 栄養面からの健康づくりに対する知識、情報を求められている	
効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> 判定理由・課題認識 地域の健康づくりに貢献する地区組織の育成は、まず栄養委員自らの健康づくりが必要であるが、委嘱を長年継続する委員は、2%弱(4名/委員数209名)であり、地区の輪番制により2年任期で選出されている。研修内容を深め、より良い活動となりにくいが広く普及啓発を進めることが可能である。
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価<A~E> 判定理由・課題認識 委員活動の計画は委員の自主性を尊重しながら、目的にそった内容となるようにとめている。委員記録の報告によると、地域での声掛けや1回運動なども活発に実施され地域での健康ボランティアとして周知度が高まっている。
有効性の評価	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	

平成21年度の状況						
目標値	結果指標量①	148	結果指標量②	2,050	成果指標量	85%
状況	拡充		現状継続		見直し	○
	縮小		整理統合		休止	
説明	栄養委員研修会を実施する意義、目的、要領等を活用して充分に説明して出席を促す。欠席者については理由を明確に把握し、次回委員会、研修会に生かす。年3回実施する栄養委員研修会については、事前に案内を送付する。					

総合評価		評価区分<A~E>
栄養委員は地区での伝達講習が委員活動の主たるものであり、中央での委員研修に参加して伝達する知識や技術を研修後、地区での伝達講習会を実施している。(市民と同じ視点で栄養改善や健康づくりを体験している。)そして、まずは家庭の中に生かし、さらに地域へと健康づくりの輪を広げている。2年で多くの委員が交代するが、次期委員が同じ体験を繰り返すことで健康づくりが周知され、健康づくりの基盤となる。		B

平成22年度以降の方向性・内容						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	委員研修の内容の充実。伝達講習会が委員の負担にならぬよう支援、協働する。					
	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果		
改善がある場合	有効性	栄養委員活動の周知を強化	H21年~	他団体との連携や地区住民からの信頼		